

令和7年度 九州SOGI専門学校 自己評価

(デュアルシステム科湯灌納棺師コース)

学校教育基本方針(教育理念)	豊かな人間関係を基盤とし、確かな専門技術を通じて、地域社会に貢献できる人材を育成する
学校教育目標	1.学生一人ひとりの目標や夢の実現を目指す 2.感謝する心と社会人としての基本的なマナーの育成 3.情操豊かな人間性の育成
重点努力目標	1.1年過程の修業年のため座学と企業実習のデュアルシステムにより就職後、即戦力プロを目指す 2.週3日の企業実習を有償とすることで積極性と責任感を養う 3.本物の企業実習ゆえに人生最後の儀式として専門知識の習得と最新技術への向上心を持つ

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	年度末評価	成果と課題
1.教育課程・学習指導					
科目編成、 教科編成に おける内容 や工夫	社会人に必要な一般教養とコミュニケーション能力を習得する	一般教育科目を設けず座学は専門知識、企業実習はプロ集団の中で学生自身の立ち位置を確認	斎場内でのインフォメーションからドリンク提供、架空ではない現場は緊張感そのもの	A	習得時間には個人差があるものの全員が専門知識習得に努めた
	即戦力となるような職業教育カリキュラムを編成する	即戦力となる社会人としての基礎知識やマナーを習得する	週3日15時間の企業実習にて経験のない状況から解決方法を通して思考の柔軟性を養う	A	次週の座学にて復習し学生同士の実習成果発表を繰り返すことで養うことができた
		企業実習はもちろん座学においても講師陣に現役湯灌納棺師を配置し現在進行形の技術を習得	経験者ではなく実習先社員を講師として招き、より具体的に、より高い技術を習得させる	A	昔の知識ではなくリアルな経験と知識を習得させることができた。
	指導方法を工夫する	業務の成果を上げるための方策は基本にあることを認識させる。	企業実習のスタートは準備、業務終了時は片付けと翌日の業務に必要な品目の確認させる	A	準備と片付け根を意識させ、成績向上、顧客満足には欠かせないと認識させることができた。
		2ヶ月周期により、企業実習評価シートを実施し情報をフィードバックさせる	社会人基礎力7項目詳細5項目に対して6段階評価を実行して企業からフィードバックさらに自己評価と比較させる	A	他人の評価で高い評価を伸ばすのか、低い評価に力を注ぐのか面談により認識確認させ次の目標を設定させることができた
	年間スケジュールを基に学生に計画的な学習をさせる	年間ターム表で役割分担業務を把握させることにより計画的な学習指導に繋げる	予習復習を毎週繰り返すことにより、それぞれの業務の流れをの特徴を生かして計画を立てさせる	B	スケジュールの管理ができていない学生が見受けられた

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	年度末評価	成果と課題
------	----	-------	-------	-------	-------

2.学生指導					
生活指導	全教職員で挨拶・礼儀の指導を行う	挨拶や礼儀、容儀等の指導を徹底し節度ある規則正しい生活を身につけさせる	授業の開始、終了時の挨拶の徹底し、開始時には般若心経の朗読を推奨	A	年間を通して真面目に取り組むことができた
		出席率を95%以上、遅刻者を5%以内にする運動を推進する	一日欠席をすると授業が遅れていくことを自覚させる。欠席早退の連絡を徹底させる	A	殆どの学生の欠席もなく100%に近い出席率となった
相談	問題行動の予防に努める	校長自ら先頭に立ち、きめ細かな生活・学習指導に努める	悩みを抱える学生の早期発見に努め、適正な教育相談を行い問題行動を未然に防止する	A	問題行動を起こした学生はいなかった。さらに適宜面談を実施し改善を促す

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	年度末評価	成果と課題	
3.進路						
キャリアサポート	早期に面談や適性検査等を実施して学生の希望にマッチングした適切な就職先を指導する	入学時に就職地域を調査把握し在学中のキャリアサポート活動に活用する	県外入学者が多いため就職地域の把握は重要で修業1年なのでさらに個人面談回数を増加する	B	個人面談により確認するも入学時希望地域の変更等あり早期確認が必要	
		学習のモチベーション、就職先への内定獲得の動機づけなどを高めるため入学後の早い段階から就職適正に関する個別面談・指導を実施したり企業実習の充実を行う	座学授業の30分、先週企業実習の内容を発表させ学生間の情報交換を密にする	A	実施することにより自身の進行度合いが把握できた	
			企業実習の内容を事前にできる限り把握させる	A	確認把握させることができた	
	具体的でわかりやすいアドバイスを行う	就職エントリーシート及び卒業論文課題の早期取組を促す	模擬面談を通して個々の特徴ある自己PRを引き出す	A	企業実習評価シートを活用できた	
			複数の教員による模擬面談を行うことにより、多様な受け答えが出来るよう指導する	A	企業実習自己評価の分析力に力がついた	
	講師陣の資質の向上を図る	企業実習先への訪問回数を増やしカウンセリングやキャリアアップのための知識やスキルを身につけ学生指導に生かすよう努力する	講師陣のスキルアップのため資格取得や研修会への参加を推奨する	B	資格取得したものは少なかった	
			企業実習の把握のため職場や実習現場を訪問	A	実習現場の訪問回数が増加した	
	家庭との連携や協力を深める	保護者が役割を認識し機能を発揮してもらうためコミュニケーションを密にするなど連携協力を深める	夏休み期間、保護者面談を実施し連携を強化する	D	入学生がそれぞれ宮城、岐阜、三重と遠方のため保護者面談はできなかった	
				校内清掃の徹底を行う	A	全員が参加し清掃を実施した

豊かな人間性を育む	躰教育、挨拶運動、読書運動、5S運動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)ボランティア活動の推進など豊かな人間性の涵養に資するような学校独自のプログラムを実施する	不定期の校外清掃への参加を推奨する	B	全員が参加できなかった
		市民大清掃に参加する	D	参加しなかった
		外部からの講演会を開催する	D	開催できなかった

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	年度末評価	成果と課題
4.社会人基礎力					
	働く意識と取り組み	自らの職業意識と勤労感を持ち職務に取り組む能力を養う	法令や職場のルール、慣行などを遵守している。出勤時間、約束時間などの定刻前に到着している。実習担当者や先輩などから業務指示、命令の内容を理解して従っている。仕事に対する自分の目的意識や思いを持って、取り組んでいる。お客様に納得・満足していただけるよう仕事に取り組んでいる。	A	2ヶ月毎に評価内容を5つの項目に分け、評価点をそれぞれ6段階とした。企業実習評価シートを企業と学生自己評価とし、フィードバックすることで双方が求める項目を確認できるようになった。又、次の目指す目標目的が明確になった。さらにシートは保護者にも郵送して関心度を推進した
	責任感	社会の一員としての自覚を持って主体的に職務を遂行する能力	一旦引き受けたことは途中で投げ出さずに、最後までやり遂げている。実習担当者や先輩の上位者や同僚、お客様などとの約束事は誠実に守っている。必要な手続きや手間を省くことなく、決められた手順どおり仕事を進めている。自分が犯した失敗やミスについて、他人に責任を押し付けず自分で受け止めている。次の課題を見据えながら、手がけている仕事に全力で取り組んでいる。	A	2ヶ月毎に評価内容を5つの項目に分け、評価点をそれぞれ6段階とした。企業実習評価シートを企業と学生自己評価とし、フィードバックすることで双方が求める項目を確認できるようになった。又、次の目指す目標目的が明確になった。さらにシートは保護者にも郵送して関心度を推進した
	ビジネスマナー	マナーの良い対応を行う能力円滑に職務を遂行するために	職場において、職務にふさわしい身だしなみを保っている。職場の上位者や同僚などに対し、日常的な挨拶をきちんと行っている。状況に応じて適切な敬語の使い分けをしている。お客様に対し、礼儀正しい対応(お辞儀、挨拶、言葉遣い)をしている。接遇時、訪問時などに基本的なビジネスマナーを実践している。	A	2ヶ月毎に評価内容を5つの項目に分け、評価点をそれぞれ6段階とした。企業実習評価シートを企業と学生自己評価とし、フィードバックすることで双方が求める項目を確認できるようになった。又、次の目指す目標目的が明確になった。さらにシートは保護者にも郵送して関心度を推進した

企業実習評価シート	コミュニケーション	適切な自己表現・双方向の意思疎通を図る能力	実習担当者や先輩の上位者に対し、正確にハウレンソウ(報告・連絡・相談)をしている。自分の意見や主張を筋道立てて相手に説明している。相手の心情に配慮し、適切な態度や言葉遣い、姿勢で依頼や折衝をしている。職場の同僚などと本音で話し合える人間関係を構築している。苦手な上司や同僚とも、仕事上支障がないよう、必要な関係を保っている。	A	2ヶ月毎に評価内容を5つの項目に分け、評価点をそれぞれ6段階とした。企業実習評価シートを企業と学生自己評価とし、フィードバックすることで双方が求める項目を確認できるようになった。又、次の目指す目標目的が明確になった。さらにシートは保護者にも郵送して関心度を推進した
	チームワーク	協調性を発揮して職務を遂行する能力	余裕がある場合には、周囲の忙しそうなお人の仕事を手伝っている。チームプレーを行なう際には、仲間と仕事や役割を分担して協同で取り組んでいる。周囲の同僚の立場や状況を考えながら、チームプレーを行っている。苦手な同僚、考え方の異なる同僚であっても、協力して仕事を進めている。職場の新人や下位者に対して業務指導や仕事のノウハウ提供をしている。	A	2ヶ月毎に評価内容を5つの項目に分け、評価点をそれぞれ6段階とした。企業実習評価シートを企業と学生自己評価とし、フィードバックすることで双方が求める項目を確認できるようになった。又、次の目指す目標目的が明確になった。さらにシートは保護者にも郵送して関心度を推進した
	チャレンジ意欲	行動力・実行力を発揮して職務を遂行する能力	仕事を効率的に進められるように、作業の工夫や改善に取り組んでいる。必要性に気付いたら、人に指摘される前に行動に移している。よいと思ったことはどんどん上位者に意見を述べている。未経験の仕事や難しい仕事でも「やらせてほしい」と自ら申し出ている。新しい仕事に挑戦するため、資格取得や自己啓発などに取り組んでいる。	A	2ヶ月毎に評価内容を5つの項目に分け、評価点をそれぞれ6段階とした。企業実習評価シートを企業と学生自己評価とし、フィードバックすることで双方が求める項目を確認できるようになった。又、次の目指す目標目的が明確になった。さらにシートは保護者にも郵送して関心度を推進した
	考える力	向上心・探究心を持って課題を発見しながら職務を遂行する能力	作業や依頼されたことに対して、完成までの見通しを立てて、とりかかっている新しいことに取り組むときには、手順や必要なことを洗い出している。仕事について工夫や改善を行った内容を再度点検して、さらによいものになっている。上手くない仕事に対しても、原因をつきとめ、再チャレンジしている不意の問題やトラブルが発生したときに、解決するための対応をとっている。	A	2ヶ月毎に評価内容を5つの項目に分け、評価点をそれぞれ6段階とした。企業実習評価シートを企業と学生自己評価とし、フィードバックすることで双方が求める項目を確認できるようになった。又、次の目指す目標目的が明確になった。さらにシートは保護者にも郵送して関心度を推進した

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	年度末評価	成果と課題
5.広報					
学生募集	わかりやすい募集要項を作成、募集を行う	入学希望者及び保護者にわかりやすい募集要項を作成する	パンフレット、募集要項の作成	A	県外からの入学生が100%を占めた
		高等学校を訪問実施。在校生の状況説明や学校のPRを強化した	学校訪問を計画的に行う	C	県内高校生へのアピール不足なのか資料請求すらない
		ホームページを適宜更新し学生の様子や学校の取り組みを紹介等を行う	ホームページ依頼会社との打ち合わせを定期的で開催する	A	早めの最新情報を提供した
		個別入学相談会に変更し希望者1人1人に時間をかけて対応する	動画等も工夫し学校側の説明を極力減らし、希望者の質問、聞きたいこと、確かめたいことに注視した	B	ほとんどが県外高校生となって3年になるが参加者全員が願書までにはならなかった
		WEBを利用した広報活動を行う	ホームページを活用する	A	広報活動はHPだけとした

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	年度末評価	成果と課題
6.組織運営					
学校経営方針	経営方針を明確化しその実践を行う	明示した中長期の学校経営ビジョンを全職員が共有し教育実践に努める	中長期の学校経営計画を策定する	A	中長期の学校経営計画を策定
			学校経営方針会議を実施する	A	学校経営方針会議を実施し次なる展開を計画
学校評価	学校自己評価を実施しその結果を発信する	自己評価結果をホームページで発信し広く外部に公表する	年度末に自己評価結果をホームページに掲載する	A	掲載
授業評価	教員の指導力を高める	学生による教員の授業評価を実施し教員の専門性・指導力の向上を目指す	前期末、後期末に地涌ぎよう評価アンケートを実施。結果を分析し改善を行い教員の指導力向上に役立てる	A	アンケートを実施し結果を回覧した

評価項目	目標	具体的方策	具体的取組	年度末評価	成果と課題
7.施設・設備					
チームで働く力	施設・設備の有効な活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う	施設・設備の安全点検を月1回以上行い環境整備を図る	毎日の校内や教室の巡回点検を行い外壁や配線の点検を実施する	A	安全点検を定期的を実施した
		日常の教育活動や指導は常に安全を優先して行う	防犯カメラの設置や放火機材の点検等を実施する	A	防犯カメラの増設を実施した
		省エネ運動を推奨し光熱費前年度5%減に努める	使用量の表示を行い教員を通じて教室やトイレ等の使用後消灯の習慣を身につけさせる	A	実施し習慣化した
			節水の表示を行う	A	節水に関心を持って実施した
情報インフラの設備・充実	パソコン等を使用した校内処理を適切に行う	パソコンによる校内処理を推進してデータ共有化を図り効率的な事務作業を行う	学生の成績管理、出席管理はデータ化し情報はサーバーで集中管理。セキュリティに注意してデータの共有化を図る	A	データ共有はできている
		パソコン上学生情報等の管理の徹底を図る	サーバー管理者を定め定期的にメンテナンス、バックアップを実施し学生情報の等の管理徹底を図る	A	定期的なメンテナンス、バックアップが実行され情報の管理徹底ができています